

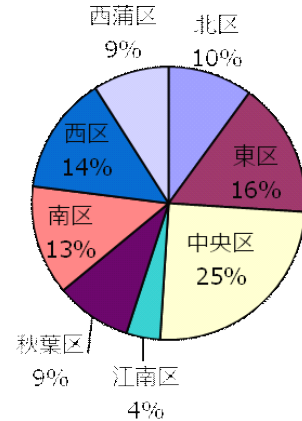
防災に関する調査とテスト

新潟市消費者協会新潟支部委託係

2011 年は東日本大震災を始め、災害の多い年だった。いつ起こるか分からない自然災害に対し、市民は“どのように捉え、考え、生活”しているのか、防災に関するアンケート調査と非常時の情報収集手段としてラジオの使用テストを行った。

調査・テストの概要

- ① 実施期間：平成 23 年 7 月～10 月まで
- ② 内容 ・ 防災に関するアンケート調査…289 名
 (市民及び協会員 389 人に配布 回収率 74%)
 ・ 非常用ラジオ使用テスト…5 種類
 (協会員 10 名でテスト、1 種類のみ係 5 名でテスト)



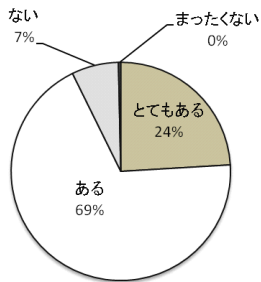
回答者 (289 人) について

性別：男性 (77 人)、女性 (212 人)
 年齢別：10～20 代 (28 人)、30～40 代 (92 人)、50～60 代 (115 人)、70 代以上 (54 人)
 住まい：北区 (28 人)、東区 (45 人)、中央区 (72 人)、江南区 (11 人)、秋葉区 (26 人)、南区 (40 人)、西区 (39 人)、西蒲区 (28 人)

アンケート結果

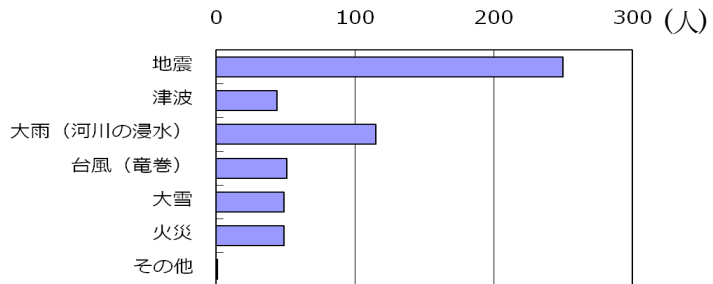
1 防災に関心があるか？

「とてもある」「ある」を含めて 9 割以上。
 年代別では 70 歳以上の人の関心が高い。



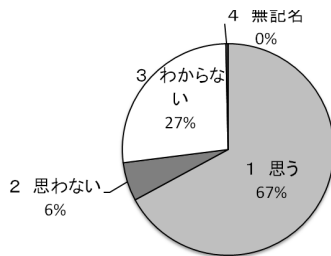
2 新潟で関心の高い災害は？

地震は全ての区が 8 割以上の高い関心。海岸に面した区は津波に、河川敷のある区は大雨に関心が高かった。



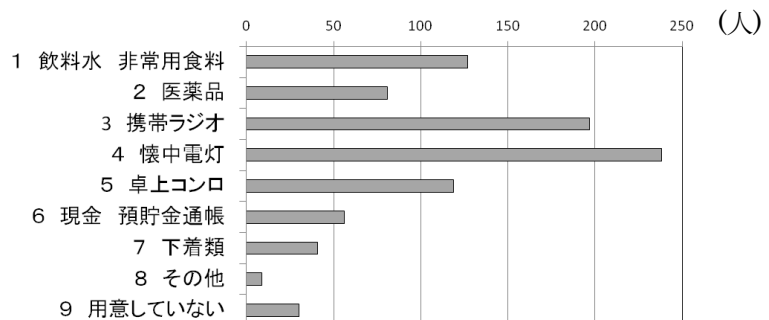
3 新潟でも東日本大震災規模の地震が起こり得ると思うか？

7 割近くの人が「思う」と答えている。



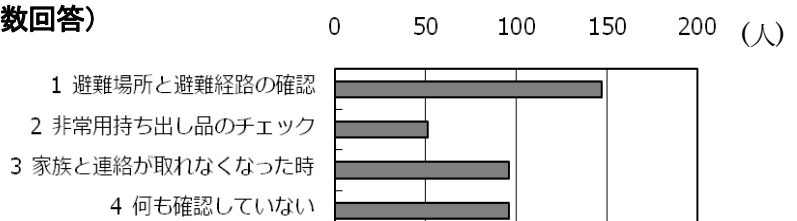
4 災害時のために用意しているものは？ (複数回答)

懐中電灯が 82% と多かった。年代が増すごとに多く用意していた。一方「何も用意していない」人が 10% いた。



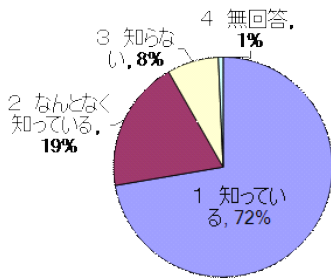
5 事前に家族と話合っていることは？ (複数回答)

5 割の人が避難場所と避難経路を確認している。約 3 割の人が何も確認していない。特に 10～20 代の 6 割弱の人が「何も確認していない」と答えている



6 最寄りの避難場所を知っているか？

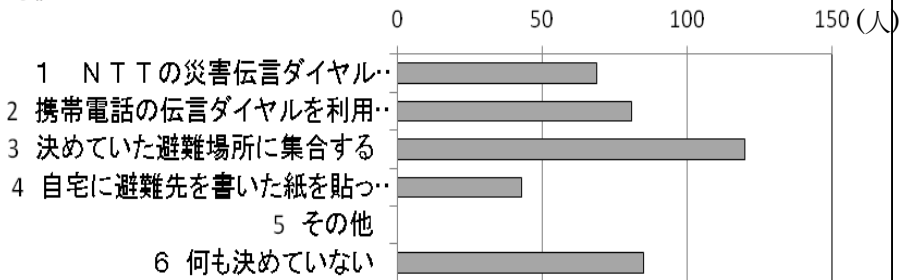
「知っている」「なんとなく知っている」を合わせると9割の人が知っている



7 家族と連絡がとれなくなった時の連絡方法は決めているか？

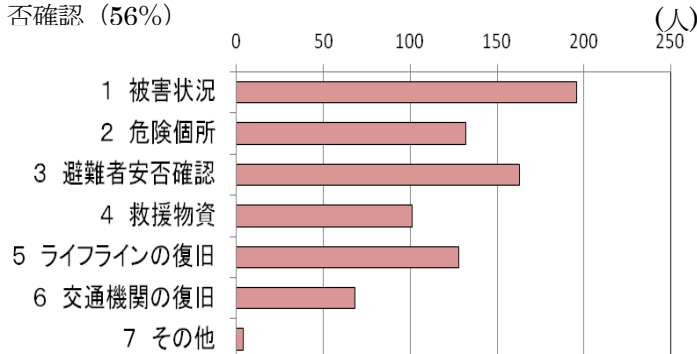
(複数回答)

「決めていた避難場所に集合」が4割、一方「何も決めていない」人も3割いる。



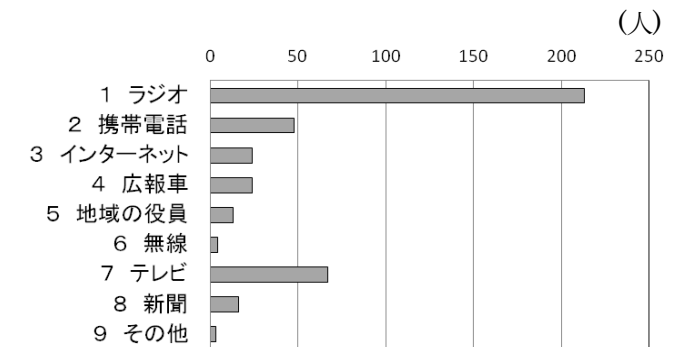
8 災害時の情報提供として、特に必要と思われることは？ (複数回答)

被害状況の情報を一番望んでいる(68%)。次いで避難者安否確認(56%)



9 情報収集を一番何によって得ようと思うか？

7割の人がラジオからと答えている。



アンケートから見てきたことや意見

アンケート結果から市民は防災に関心の高いことがわかった。しかし、事前の家族との話し合いや災害時の備えが十分といえないことも分かった。災害に備え、もっと防災対策が必要ではないだろうか。

- ・市民は、市が発行している「非常時持出品チェックリスト」を参考に準備を進めてほしい。また家族の話し合いもしっかりやりたいものである。
- ・行政や自治会では地域ごとの対策（危険箇所や避難方法、避難場所）を立て、住民に周知してほしい。
- ・早く正確な情報の伝達のために、広報車の充実、防災行政無線の全地域への拡大を進めてもらえるとありがたい。
- ・東日本大震災では小学校の防災教育が活かされたという。防災教育の充実をお願いしたい。

非常用ラジオのテスト

テストした商品

1 電池ラジオ	2 電池、手回し充電ラジオ (携帯充電、ライト、ホイッスル付き)	3 電池、ソーラー充電ラジオ (イヤホンのみで使用)	4 手回し・ソーラー充電ラジオ (LEDライト、携帯充電、サイレン、USB機器付き)	5 電灯線 電池ラジオ (緊急警報放送対応、ゆっくり再生機能付き)
				

電池を使用するラジオの方が聴きやすく、手回しやソーラー機能はあった方がよいが、性能は期待するほどではない。電池使用を主体に他の機能は予備的と考えて機種を選定の方がよい。携帯充電機能は実際に充電に役立つ。付いている方がよい。視聴して購入できる場合は視聴を勧めたい。特に災害発生時はラジオからの情報源が有効であり、各家庭に一台は準備をするとよい。予備電池の準備も忘れないようにしたい。